

環境パフォーマンス

項 目	単 位	2019年度	2020年度
エネルギー使用量	kL/年(原油換算)	10,218	8,757
CO ₂ 排出量	t-CO ₂ /年	18,923	16,112
水使用量	m ³ /年	102,185	87,683
産業廃棄物排出量	kg/年	748,026	469,430
排水量(排水処理施設)	m ³ /年	42,150 ※	33,493

※ 11,501.2 m³ が河川に、30,648.8 m³ が下水道にそれぞれ放流、2019年7月14日に、処理水を河川放流から下水放流に切替

排水の水質関連

項 目	単 位	法・公的規制	自主管理基準	実測値		
				平均値	最大値	測定頻度
水素イオン濃度(pH)	mg/L	5.0を超え9.0未満	5.7～8.7	7.2	7.6	1回/月※
生物化学的酸素要求量(BOD)	mg/L	600	300	0.9	1.8	1回/月
浮遊物質(SS)	mg/L	600	300	2.1	5	1回/月
ノルマルヘキサン抽出物中の鉱油類含有量	mg/L	5	5	1未満	1未満	1回/月
ノルマルヘキサン抽出物中の動植物油脂類含有量	mg/L	30	30	1未満	1未満	1回/月
窒素	mg/L	240	240	4.7	12	1回/月※
燐	mg/L	32	20	0.1	0.54	1回/月※

※ 計量証明事業者による1回/月の分析に加えて、自動分析装置で2時間ごとに分析

排水の水質関連 排出総負荷量

項 目	排出総負荷量	
	2019年度	2020年度
生物化学的酸素要求量(BOD)	0.03	0.03

(単位:トン)

悪臭関連

・規制地域外

騒音・振動関連

・基準値の超過はありません

粉塵関連

・基準値の超過はありません

PRTR対象物質関連

物質番号	対象物質	取扱量	排出量			移動量		その他の量		
			大気排出	水域排出	土壌排出	廃棄物	下水道	リサイクル	消 費	除去処理
30	直鎖アルキルベンゼンスルホン酸、およびその塩	2.61	0	0	0	0.01	0	0	2.60	0
31	アンチモン、およびその化合物	1.53	0	0	0	0	0	0	1.53	0
66	1,2エポキシブタン	0.05	0	0	0	0	0	0	0.05	0
384	1プロモプロパン	0.94	0	0	0	0	0	0	0.94	0
412	マンガン、およびその化合物	34.9	0	0	0	0	0	0	34.9	0
報告対象物質合計		40.03	0	0	0	0.01	0	0	40.02	0

(単位:トン)



住 所：三重県会郡玉城町野篠字又兵衛704-19
事 業 内 容：消耗品(カラー・モノクロトナー)の製造
敷地総面積：101,511m² 建築延床面積：36,552m²
緑 化 率：20.3%
従 業 員 数：249名(2021年3月末現在)

京セラドキュメントソリューションズ

た ま き

玉城工場サステナビリティレポート 2021

ごあいさつ

『お伊勢さん』の西隣り三重県玉城町に位置する、京セラドキュメントソリューションズ 玉城工場は、複合機やプリンターの消耗品である、トナーの開発から生産までを担うトナー生産を主体とした工場です。この重要な事業活動を持続的に成長・発展させ続けるため、当工場でもCSR活動に積極的に取り組んでいます。周辺は豊かな自然環境に恵まれており、住宅地、農作地にも隣接しています。そのため特に「環境保全」、「地域との共生」、「安全な職場の実現」を最重要課題に掲げています。

「環境保全」については、工業排水、粉塵などを対象に法令より厳しい自主管理基準を定めて、管理を徹底しています。また、玉城町には希少動植物の生息が確認された湿地帯があり、希少動物の研究や環境学習の場として活用できるよう、ビオトープとしての整備に微力ながら貢献しています。

「地域との共生」については、周辺の清掃はもちろん、近隣地域施設の清掃活動にも積極的に参加し、また、玉城町の小学校に対して環境出前授業の実施や、中学生の学習の場として職場体験の場を提供することで青少年育成活動に取り組み、多数の地域住民の皆さまと友好的な関係を築くことに努めています。

「安全な職場の実現」については、ISO45001労働安全衛生マネジメントシステムの認定取得工場として継続的な改善に取り組み、社内基準の「パーフェクト5S」(すなわち完璧な5S:整理・整頓・清掃・清潔・躰)を実践し、安心して働くことのできる職場環境作りと、無事故無災害の継続に取り組んでいます。

このように、私たちは持続可能な改善目標を設定し、その解決に継続的に取り組み、その活動を近隣住民の皆さま、お取引先さま、地元の行政機関の皆さまに対して、定期的にCSR報告会を通じて報告しています。



工場長 西村 俊紀

2020年度 環境目標と実績

環 境 目 的	項 目	2020年度目標	2020年度実績
低炭素社会 への貢献	エネルギー使用量	原単位前年度比 2%削減 原単位:トナー生産量	1.8%削減
	CO ₂ 排出量	350[t-CO ₂]削減	60.4[t-CO ₂]削減
循環型社会 への貢献	産業廃棄物排出量	原単位前年度比 1%相当の 絶対量削減の対策を実施 原単位:トナー生産量、1%相当=6,734[kg]	250,891[kg]相当の 削減対策を実施
	水使用量	原単位前年度比 1%相当の 絶対量削減の対策を実施 原単位:トナー生産量、1%相当=972[m ³]	18,774[m ³]相当の 削減対策を実施

地域社会とともに

玉城町社会福祉協議会から感謝状を受領

玉城町社会福祉協議会から、長年の寄付活動などによる地域の社会福祉事業への貢献に対し、感謝状が授与されました。玉城町は毎年、「玉城町社会福祉大会」を開催し、社会福祉への貢献が顕著であった個人や団体を表彰しています。

2020年度は、新型コロナウイルス感染拡大の影響で大会は中止となりましたが、当工場は6年ぶりに感謝状をいただくことができました。今後も地域の社会福祉事業活性化に向けて取り組んでまいります。



感謝状

Kids'ISO 14000環境出前授業を実施

三重県では、小学校児童が家庭における省エネルギーなどの活動を通じて環境への関心を高める「Kids'ISO 14000プログラム(入門編)」を推進しています。これは、県の環境基本計画に織り込まれた環境教育の実践の場になります。私たちは、2005年よりこのプログラムに協力し、毎年、玉城町の小学校で環境出前授業を行っています。



環境出前授業

地域での清掃ボランティア活動

労働組合と共催で行う清掃ボランティア活動として、玉城町が春と秋に主催する、田丸城跡クリーン作戦に毎年参加しています。このクリーン作戦は、玉城町が誇る歴史文化遺産を町民みんなで守り、育てていくことを目的に実施されています。町内の他の団体・企業からの参加者とともに、田丸城跡の草刈りや清掃活動を行っています。



田丸城跡清掃

歳末助け合い募金を実施

地域貢献活動の一環として、年末に社員による歳末助け合い募金活動を行い、玉城町社会福祉協議会に寄付を続けています。



歳末助け合い募金を寄付

環境保全活動

エネルギー使用量削減の取り組み

地球温暖化防止のためのCO₂の排出抑制を目的として、2019年6月、新たに5棟の工場屋上に2,814枚の太陽光パネルを設置しました。この太陽光発電設備は、一般家庭約184世帯に相当する電力を作るとともに、年間約412トンのCO₂削減に寄与しています。

また、第3工場トナープラントの換気設備において、給気・排気ファンにインバータ※を取り付け、室内の浮遊粉塵濃度を基準値以下に保持したまま、風量を低減させることで、使用電力量を年間98,496kWh、CO₂排出量を年間約42トン削減しました。

※ AC(交流) モーターに供給する電力の周波数を制御することにより、モーターの回転速度を制御する機器



屋上に設置された太陽光発電システム

里地里山の保全・再生の取組に関する協定書を締結

2020年から環境保全活動の一環として「清(すが)し有田佐田沖環境保全会」が推進しているビオトープ再生活動に参加しており、このたび、三重県が推進している農山漁村の活性化事業「三重のふるさと応援カンパニー推進事業」にビオトープ再生活動が認定されたことから、三重県知事と玉城町長を立会人とする協定書が締結されました。

活動参加当初の谷津田※1は、機械化に対応できず作業が過酷であるなどの理由から、10年以上放置され、伏流水が常時浸みだす環境下でハンノキやササ類が繁茂する湿地帯となっていました。現在は除草・間伐や植物の植え付け、水路の整備などの活動の結果、ビオトープとして順調に整備が進んでいます。また、2018年から始まった生物調査の結果、絶滅危惧種としてレッドリストに登録されている希少動植物※2の生息が多数確認されました。今後、希少動植物の研究や環境学習の場としての活用などが期待されることから、ビオトープの再生と並行して、子どもたちが安全に環境に配慮して学習できるように、湿地帯に材木を組んだ歩道の整備を進めています。

※1 谷地にある田んぼのこと

※2 絶滅危惧Ⅱ類……植物：マツカサススキ、ミズトラノオ 生物：モートンイトトンボ、ホトケドジョウ、クロゲンゴロウ
準絶滅危惧 ……植物：ミズギボウシ 生物：ミドリシジミ、シマゲンゴロウ
(三重県レッドデータブック2015より)



玉城町役場で行われた協定締結の様子

社員とともに

防火防災

三重県玉城町は、南海トラフの巨大地震発生予想地域の一部です。災害発生時の被害を最小限にとどめられるように、緊急地震速報システムを設置するとともに、総合防火防災訓練、および夜間防火防災訓練を毎年秋に実施しています。

総合防火防災訓練では、模擬緊急地震速報の受信を合図に、身体を守る初動訓練、その後、火災が発生したことを想定して、119番へ模擬通報するとともに、初期消火、避難訓練を実施しています。また、伊勢市消防本部の指導による消火器、屋外消火栓の操作訓練、第6工場屋上からのはしご車による救出訓練、地震体験車による、南海トラフ地震の模擬体験やAED、救急救命措置の訓練も実施しています。

また、夜間防火防災訓練では、深夜時間を想定し、環境安全部門関係者不在を前提に、警備員が中心となって、消防署への通報訓練、初期消火訓練、避難訓練を実施しています。



消防への通報訓練



消火器訓練



夜間防火防災訓練